

## 我が国の証券流通市場の活性化について

我が国の証券市場は、金融システム内での存在感を高めつつあるものの、欧米各国と比較すると未成熟であると言わざるを得ない。我が国の証券市場の利便性向上を目指した包括的な金融システムの改革である日本版金融ビッグバンの実施、金融庁の設立、幅広い金融商品への包括的・横断的に対応することにより利用者の利便性の向上を図った金融商品取引法の施行等様々な市場活性化策が実施されてきた。しかしながら、「貯蓄から投資へ」の動きは未だ十分とは言えないだろう。具体的なデータに基づけば、我が国の家計の資産構成に占める株式・投資信託・債券の割合は、2014年12月時点で16.3%と昨年からは微増しているものの、現金・預金は52.6%を占めているといった状況である。

さて、証券市場であるが、発行市場と流通市場で構成されており、自転車の両輪のようなものとなっている。発行市場では、企業・国・地方公共団体などによって新たに発行された証券が、流通市場において投資家間で売買される。どちらか片方が活性化するだけでは証券市場全体の活性化にはならないのは確かである。しかし、個人の資金運用が証券へと向かい流通市場の取引量が増大すれば、発行市場を通じた資金調達も盛んになると考えられる。

そこで、証券市場全体の活性化のために、本テーマでは流通市場の活性化に絞って議論していただく。ここで指す流通市場とは、証券取引所や証券会社を通じての証券の取引のみならず、証券会社および銀行と個人投資家間の取引も含めることとする。

なお、本テーマを議論する手順であるが、抽象的な概念を固めた上で具体的な施策の提案に移行するという流れにしたい。取引の目的やそれを実行することに伴う困難さをまとめていただく。続いて、株式、債券の流通市場に対する施策について議論する。さらには、証券会社および銀行と個人投資家間の取引の在り方についても考える。

実りのある議論を行うためには、関連文献に記述されている方策をただ取りまとめるだけでなく、その背後にある論理を十分に理解する必要がある。その意味では大変困難なテーマであるが、一層重要になると考えられる証券市場にかかわる知識を深めるために、大いに意義があるものと言えよう。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 取引の目的</li><li>・ 取引に伴う困難さ</li><li>・ 株式流通市場に対する施策</li><li>・ 債券流通市場に対する施策</li><li>・ 証券会社および銀行と個人投資家間の取引の在り方</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 経済学的な観点からの取引の意義および困難さ</li><li>・ 情報の非対称性</li><li>・ 流動性プレミアム</li><li>・ 株式および債券流通市場の仕組み</li><li>・ 証券会社の役割</li></ul>